
面影

五十嵐 ライカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

面影

【Nコード】

N0049V

【作者名】

五十嵐 ライカ

【あらすじ】

大好きな君の面影を…

(前書き)

なんか思いつきで書いたSS

君と出逢ったのは、6年前。
僕と君が中学校に入学したときのことだ。
たまたま同じクラスになった僕ら。
時折話す程度のただのクラスメイト。
だけど、僕は君に一目惚れをした。

やがて、中学を卒業する時期がやってきた。
同じ高校に進学したかった。
しかし、さして親しくもなかったので、君がどこに進学するかわからなかった。

偶然同じ高校に進学することを願ったが、叶わなかった。

そして、卒業式。

君に僕の想いを伝えなかった。
しかし、内気な僕は、勇気を出せずにいた。
結局、僕は君に想いを伝えることはできなかった。

君と会えなくなって、3年の月日経った。
卒業してから、一度も君とは会えなかった。
それでも、未だ僕の心の中には君が居る。
忘れることができない…。

外に出て、ふと気がつく君の面影を探している。
こんな場所に君が居るはずもないのに…。

逢ったとしても、どうすることも出来ないのに…。

もう君は、僕を忘れてしまっているのかもしれない。

僕ももう、君の事を忘れてしまわなければならないのかもしれない。

そう、君は思い出の人。

だけど、今日も面影を探している。

もう、届くはずもない。

わかってる、でも…。

君のこと、好きだったんだ。

伝えなかった。

けど、伝えられなかった。

伝えられないからこそ、強く、激しく焦がれる胸。

いつまでも忘れられない、君を想う、切ないこの気持ち。

あの日、僕が臆してなかったら、伝えられたのに…。

後悔しても伝わらない。

ただとせめて、心の中で言わせてください。

愛していました…。

面影

(明日もきつと、君の面影を探すでしょう)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0049v/>

面影

2011年10月9日12時02分発行